

凌霜ラガー通信

リーグ戦を前に

監督 田中俊明 (昭49)

夏の合宿も8月17日無事終り、いよいよ9月13日の対近畿大学戦を皮切りにリーグ戦に突入することになる。言うまでもなく選手諸君は優勝を目指して最後の調整に励んでいるが、今年度は昨年Aリーグから転落した関西学院大学、大阪商業大学を加え今までにない混戦が予想されるだけにより一層奮起してもらいたいところである。ここ数年間リーグ戦での戦績は大きく負け越しており、特に4年生にとってはこれまでの大学生活の中で教えるほどしか勝利ゲームを味わっておらず残りのシーズンに悔いなく卒業できるように全員一丸となってこれまでの借りを返すつもりで頑張ってもらいたい。またOB諸兄にも多くの方がグラウンドにお越しただいて現役諸君を叱咤激励していただくようお願い申し上げます。

そこで今年度のチームの現況とBリーグの展望について述べておきたいと思う。

1. チームの特色

現在のところ有望な新人9名を加え部員数は40名を越えている。資質の面でも優れたものを持っており来年度以降も楽しみであるが、全体的に見た体格は従来と同様それほど恵まれているとは言えず、春の練習でも体力アップに重点を置いたプログラムを組んできた。しかしながら他チームを圧倒するにはあと数年を要するため、今シーズンは次の3点を重点目標としてチームの体制を整えるべく練習を行ないそれなりの成果をあげてきたように思われる。

- (1) 体格を走力で補い走り勝つチームとなること。
- (2) ボールコントロール、パスワークにより多くの時間ボールを自軍の支配下に置くこと。
- (3) 強いタックルによりディフェンス力を強化すること。

春の練習試合、夏合宿での試合を通じて、ボールのつなぎはこれまでのチームと比して大巾に向上している。個人的に飛び抜けた選手がいなくても、FW、バックス一体となった全員ラグビーを行なっていくために不可欠な条件であるが、大阪市役所との練習試合で奪った2つのトライはラック・モールを連取してゴールに飛び込んだすばらしいものであった。走力の面ではスピードが今ひとつながらスタミナでは春・夏合宿を通じての走り込みで十分に養成されたと思う。ディフェンス力は不十分で初戦までの課題といえる。攻撃におけるあたりの強さは出てきたものの、防御面での強さがもの足りない。

2. チームの課題

FWのモール・ラックはAリーグのチームと比較してもそれほど遜色のないほど強くなってきているがセットスクラムでの強さが今ひとつ押し負けることもないと思われるが圧倒できる強さもない。さらに練習を積んで押し勝てるスクラムを組めるようになること。

バックスはスピード不足で決定力に欠ける、フルバックのライン参加等のサインプレーもオープンへ回しての決定力がない限り効果がない。引続き練習に励むとともに、敵に対するあたりの強さである程度カバーすることが必要である。

全体的にはミスをもっと最小限に抑え、またミスをして全員でカバーできるようにバックアップ体制を整備すること。毎年つまらないミスで相手に得点され敗れるケースが多く、今年こそそのようなことが皆無でリーグ戦を乗りきってもらいたいと思っている。

3. Bリーグの展望

最後にBリーグの展望であるが、春の練習試合を見た限りでは関学の力がやや他大学を上回っており当面の目標は関学ということになる。他のチームはすべてどんぐりの背くらべといったところでこれからのコンディショニングづくりが重要なポイントとなる。

自信を持ってゲームに臨めば、昨年、一昨年の戦績で終わるはずはなく、またAリーグの下位チームの力も弱いためAリーグ復帰も決して夢でない。現役諸君のねばり強いゲームを期待する。

コーチングスタッフ

監督	田中 俊明 (昭49)
ヘッドコーチ	山之端 邦男 (昭53)
ホワードコーチ	西野 忠文 (昭51)
〃	磯江 憲夫 (昭53)
バックスコーチ	田中 計久 (昭53)
〃	明慶 剛 (昭53)

昭和56年度新入部員紹介

		出身校
プロップ	伊井 正 明	茨木
	加野 直 生	北野
ロック	古野 幸 徳	大手前
	橋本 吉 史	高津
フランカー	中村 俊 夫	兵庫
	柳瀬 秀 夫	富田林
No. 8	遠藤 務	高津
S.H.	西野 裕 章	高津
	林 敬 一	高津
	平野 勲	大手前
O.T.B.	米村 厚	大手前

今シーズンの展望と抱負

現役主将 天知吾郎

一昨年のリーグ戦では1勝6敗、昨年は2分5敗という不成績に終わり、2年連続0リーグとの入れ替え戦に出場という不名誉な結果を残した現役チーム。数年間の不振を今反省し、今シーズンの抱負を述べたいと思います。

すでに春期の練習を終え、現在夏合宿前の練習期間であります。これまで一貫して実行してきた方針は、FWについては数年来謂われてきた展開力と、密集プレーの強化、BKは、まずオープン攻撃を確実に自分のものにする、そして、チーム全体として、謂うまでもなく、各人の体力、筋力の向上を図ることでした。

ここ数年、FWは春はセットプレー中心に、夏から秋にかけては、ルーズプレーに重点をおいた練習をするというパターンを持っていましたが、今年はそれを改め、春はまず昨年からの課題であったモール・ラックを徹底的に練習し、やっと自分たちの型というものを体が覚えこんできたという段階にまでこぎつけることができました。現段階では、セットスクラムに多少の不安はありますが、毎年合宿でのハードな練習と、9月に入ってから社会人チームとの練習で力をつけているので心配はありません。またラインアウトも今年は、68をバックラインに位置させた5人のラインアウトを多用し、攻撃に幅をもたせるつもりです。BKについても同じく、「オープン攻撃ができないバックラインは敵にとって恐くない。」という判断で、春からずっとオープンプレーを中心に練習してきました。そしてこれからはFB・両CTBを核にしたサインプレーを加えてトライを取るパターンを作り上げていきます。

また、春先から、ウェイトトレーニング、サーキットトレーニングも従来にも増して、豊富な量をこなしてきましたので、全部員の体力、筋力はかなり向上しております。

さらに、今秋のリーグ戦を戦っていくにあたって、次の2つのことを実践していこうと思っております。1つは、自分たちのチームのカラーとして「フォローすること」を掲げ、そういうチームを作り上げていくことです。決定的なスピードの持ち主の少ない我々が、勝利への活路を見出すには、つぶされても、つぶされても、全員が走りまくってボールをつないでいくことしかないと考えています。このことはアタックの面のみならず、ディフェンスの面でも、タックルに行っても倒れても、またすぐ起き上って次の目標に向かってタックルに行くプレーや、最後まであきらめないディフェンスをしていく上にも生かされると思います。

さらに、いま1つ、ここ数年来謂われ続けていることなのですが、精神的な厳しさを植えつける

ことの問題です。春の練習の間に、我々4年生が中心となってこのことを考え直し、全部員に再三口うるさく説いてきましたが、これからは方法としての厳しさも取り入れようと思います。たとえば、練習中のミスや手ぬきに対する「アゲイン」を厳しくしたり、練習中の移動をすばやくさせることや、1軍、2軍をはっきり分け、その選考を厳しく行なうことなのです。このような厳しさのなかからなれあいでない真のチームワークが生まれ、勝利をつかむことができると我々は信じています。

とにかく強いチームを作り上げ、リーグ優勝、そしてAリーグ昇格へと全員一丸となって頑張ります。

最後になりましたが、OB諸先輩方の厳しい御指導をお願い申し上げておわりにします。

昭和56年度 現役幹部

- 主将 天知吾郎 (S) 西宮南
- 副将 川北登志雄 (B) 天王寺
- 坂下清信 (T) 高津
- 主務 川端倫人 (J) 高津

昭和56年度 現役春期戦績

4.26	神戸大	26	{	$\frac{4}{22}$	-	$\frac{0}{0}$	}	0	桃山学院大
5. 5	神戸大	20	{	$\frac{16}{4}$	-	$\frac{0}{4}$	}	4	神大医学部
5.16	神戸大	54	{	$\frac{26}{28}$	-	$\frac{0}{0}$	}	0	八代学院大
5.17	神戸大	0	{	$\frac{0}{0}$	-	$\frac{0}{12}$	}	12	大阪ガス
5.23	神戸大	24	{	$\frac{6}{18}$	-	$\frac{0}{7}$	}	7	同大同好会
5.24	神戸大	4	{	$\frac{0}{4}$	-	$\frac{14}{0}$	}	14	和歌山大
5.30	神戸大	8	{	$\frac{8}{0}$	-	$\frac{0}{6}$	}	6	神戸学院大
5.31	神戸大	8	{	$\frac{4}{4}$	-	$\frac{0}{16}$	}	16	大阪市役所
6. 7	神戸大	18	{	$\frac{4}{14}$	-	$\frac{8}{20}$	}	28	立命館大
6.14	神戸大	4	{	$\frac{0}{4}$	-	$\frac{16}{4}$	}	20	六甲クラブ
6.21	神戸大			6-14					同志社大 (35分1SET)
6.21	神戸大			10-10					京都産業大 (35分1SET)

昭和55年度三商大戦および入替戦々績

三商大戦	神戸大	22-16	一ツ橋大
	神戸大	6-7	大阪市大
入替戦	神戸大	24-6	大阪府大

この結果Bリーグに残留決定

昭和55年度 事業報告および理事会報告

井沢 俊之 (昭30)

事業報告

1. 総会 55年11月 大阪凌霜クラブにて開催した。
1. 名簿作成 54年作成以来、再発行が急がれていた。
1. 会報の発行 55年12月発行のみに止まる。
1. 懇親ゴルフ 55年5月、55年10月の2回開催。

理事会報告

55年度理事会は、55年7月、55年11月、56年3月の3回開催致しました。

理事の改選、予算、決算の報告、検討、思誠ラガー、医学部ラグビー部との関係の検討、等が主な議案でありました。

55年度 凌霜ラガー 収支決算
および56年度予算

竹村 秀博 (昭33)

決算

収入の部	支出の部
1. 年会費 863,000 大阪 129名(135口) 東京 37名(37口)	1. 対外試合費 12,800 (東京)
2. 預金利息 6,939	2. ジャージ代 59,800
3. 雑費繰入 12,250	3. 会報 70,000
4. ジャージ販売代 6,000	4. 名簿積立金 50,000
5. 前期繰越 137,286	5. 通信費 64,430
	6. 協会費 11,000
	7. 慶弔費 30,000
	8. 現役補助 360,000
	9. OB合宿 70,070 参加補助
	10. 春OB懇親会 26,020 補助(東京)
	11. 次期繰越 271,155
合計 1,025,475	合計 1,025,475

予算

収入の部	支出の部
1. 会費 (180名) 900,000	1. クラブチーム運営費 160,000 (内用具、ジャージ代) (80,000)
2. 前年度繰越 271,155 東京 147,020 大阪 124,135	2. 会報 100,000 (郵送料等含む)
	3. 名簿作成費 70,000 (別途前年度積立50,000円あり)
	4. 通信費 120,000
	5. 協会費 12,000
	6. 慶弔費 30,000
	7. 保険料 70,000
	8. 現役補助 360,000
	9. OB合宿 100,000 参加補助
	10. 三商大戦補助 30,000
	11. 懇親会補助 60,000
	12. 雑費 35,000 (消耗品費等)
	13. 次期繰越 241,155
合計 1,171,155	合計 1,171,155

対現役戦戦評

室賀 隆 (昭43)

4月29日、曇り空の六甲台グラウンドに、約30名のOBが参集し、現役との交歓試合を行った。

試合前の現役の練習を見て、「これは軽く勝てるデ」とOBチーム全員ニンマリ。しかし、試合が始まると、開始直後は、往年の華麗(?)なステップ、豪快(?)な当たりがチラホラ見られたものの、時間の経過と共に、意に反して体の動きが鈍くなり、さして大したことはない現役のスピードと当りに翻弄され、山本先生(昭29)、赤崎氏、井沢氏(昭30)らの声援も空しく、スコアが示す通りの惨敗であった。

しかしながら、西松氏(昭31)のコンバート成功、56年卒の新OB藤原君のトライなど、今後期待を抱かせる材料も多く、凌霜ラガーとしての収穫は大であった。なお、今回、西松氏の帰阪第1戦で、参加督促が厳しかったため、中堅OBの参加率が高く、40才以上が4名、35才以上が7名と非常な高令チームとなった。これに反し、若手OBの参加率がきわめて悪く、今後、積極的な参加を切望する次第である。

試合後、六甲台食堂で、OB・現役の交歓パーティを開いたが、アルコールが入ると、OBの独壇場で、大いに気炎が上ったことは言うまでもない。

スコアおよびメンバーは下記の通りである。

凌霜ラガー 10-40 現役	
1. 浜名(56)	9. 室賀(43) 田中永(49)
2. 鍵野(37) 本間(56)	10. 和田(45)
3. 森(49)	11. 野中(44) 脇(44)
4. 長谷川(38) 田中淳(44)	12. 千歳(37)
5. 葉室(43)	13. 田中計(53)
6. 磯江(53) 西松(31)	14. 藤原(56)
7. 西野(51) 渡部(48)	15. 坂下(48)
8. 用水原(44) 森内(56)	

会費納入のお願い

会費納入ありがとうございます。
本年度も引き続き納入をお願いします。

尚、未納になりますと再案内等非常な負担がかかりますので何卒よろしくお願いします。

1. 年会費 5,000円
(55年度未納の方は10,000円お振込み下さい)
2. 会費振込先
 - 住友銀行天満橋支店
普通預金№ 957978 凌霜ラガークラブ
 - 三和銀行大阪駅前支店
普通預金№ 27557 凌霜ラガークラブ
 - 三和銀行虎ノ門支店
普通預金№ 332-25246 凌霜ラガークラブ

ラグビーとゴルフ

稲岡正信(昭16)

早く管理職になり、会社の役員になって、退任後は余生をどこかのゴルフ場の支配人にでもなっている……、これが一般的サラリーマン・ゴルファーの画くコースのようですが、私は現実にこの過程を辿って今は西宮高原ゴルフ倶楽部の支配人として第2の人生を進んでいます。然し夢と現実には矢張り相異し、舞台裏では観覧席で観賞するような訳には参りません。数多くのメンバーやプレーヤーの間に立って「あちらが立てば、こちらが立たず」の苦境に右往左往している始末で、健康的な環境も精神的には極めて不健康な周囲の有様です。それでも老令期の職業としては最適とも謂えるべく毎日を元気に頑張っています。

ゴルフはラグビーと同じく英国で発生しただけに両者は著るしく類似しています。なによりもフェア・プレーが根幹になっていることで、それから派生して成績や勝敗よりもエチケット、マナーを重視することや、審判に絶対服従する思想、更には罰則の適用基準、風雨に拘らず競技を強行することなど全くよく似ているものです。紳士のスポーツであると云う根本思想がゴルフ場の運営面でもどれ程強力な支援になっているか測り知れません。勿論その反面もあり得ますが……。

5月9日(土)、西宮高原ゴルフ場で凌霜ラガ－・ゴルフ・コンペが催され私も参加しました。五島さん(昭16)と私が最古参で、続いて能勢さん(昭16)とこの3人が還暦を過ぎており、他の皆さんはいづれも壮年期で今や花盛り、社会的にも大活躍中の方々ばかりでした。しかしプレーの結果は地主の私が当然に?……優勝させて頂きました。この西宮高原は馴れぬ人には難しいとの風評ですが、それでもなんだか心優しい方々を我が庭園内に引き摺り込んで無理無体をしたのではないかとの一抹の後めたさを感じております。これに懲りずに次のご来場をお待ちしております。

どうもゴルフとラグビーは思想的には類似しているものの運動神経面では背反する面も多くあるらしく、その証拠に、その昔、あの広いグラウンドを縦横無儘に走り廻った古強者達も、今では小さい球に翻弄されて全くだらしく不恰好な姿がそれを如実に物語っているようです。球に触れることから由来したラグビーと、お触り厳禁のゴルフとの差か? 楕円球と正円球との違いか? それとも足腰の萎えか? とにかく不思議です。

ラグビーは人生前半のスポーツ、そして後半はゴルフでと、お互い人生を楽しみましようや。

寄稿のお願い

編集部では、〈思い出のゲーム〉〈西から東から〉といった企画への皆様方の参加をお待ち致しております。400字詰原稿用紙に3~4枚程度で、横書にてお願いします。

投稿先 〒545 大阪市阿倍野区文の里3-14
-8-304 山下 弘 (昭33)宛

東京凌霜ラガ－短信

松村竜男(昭34)

冷夏を想わせた今年の東京でしたが、7月中旬から急に暑くなり、本格的な夏になりました。1人で10人分の活躍をされた西松先輩(昭31)が転任された後の東京凌霜ラガ－クラブは、急に火が消えたように淋しくなり、本年度の総会もまだ開かれていない現況です。集まれば楽しいことは解っているのになかなか集まらない。幹事の皆様も日常の仕事に追われて、機会を見つけるのに大変なようです。

先日、勝屋さん(昭32)がブラジルから帰国され、久しぶりにお会いすることが出来ました。勝屋(昭32)、野川(昭33)、松村(昭34)の3代のキャプテンと、小出(昭32)、沢田(昭34)の両マネージャーを交えて夜の銀座で旧交をあたためました。合宿の思い出、試合の思い出、先輩諸氏の話など話題はつきず、いつのまにか太田先輩(昭27)が目の前に現われるのではないかと思うほど学生時代に帰って楽しい一宵を過ごしました。

8月になりますと、夏合宿のシーズン、今年もラグビーシーズンの開幕です。今年も現役のAクラス入りはなかなかむづかしいとは聞いていますが、これからますますブームになるラグビーです。OBともども頑張ってお神戸旋風を巻き起して欲しいものです。現役の指導に、対外試合に、本部の皆様のご活躍をお祈りいたします。

お帰りなさい! お元気ですか

山下 弘(昭33)

昭和32年にブラジル南米銀行に就職のため渡伯された勝屋先輩(昭32)がこの5月に出張のため9年ぶりに帰朝されました。そこで5月12日大阪凌霜クラブに山本泰督先生(昭29)を始め、坂本、井沢、横田(昭30)浅野、西松、高塚、小林、盤井(昭31)野間、小川(昭32)浜田、山下(昭33)野村、戸田(昭34)の諸兄が集り、おそくまで想い出話に花を咲かせました。また、めづらしいブラジルのお話しを、あれこれとお聞かせ願いました。

勝屋先輩の勤務先は下記の通りです。凌霜ラガ－の方々にブラジルを訪問される機会がありましたら、是非、訪ねて来て下さいとの事です。

ILMO., SR. IWAO KATSUYA
BANCO AMERICA DO SUL S.A.
AV. BRIGADEIRO LUIZ ANTONIO, 2020
SAO PAULO, BRAZIL
FONE: (011) 288-4933

編集後記

7月中頃、突然、井沢先輩より会報の編集をやるように言われ、ズブの素人が頭を悩ませながら大急ぎでここまでこぎつけました。予定より大分遅くなりましたが御了承下さい。皆様からの多くの御寄稿をお待ちしております。(昭33 山下)